水焔（すいえん）

第５号
2006. 3. 1

理念　障害があっても人間としての尊厳をもって生きることを支援するリハビリテーション医療・介護をめざします。

協立リハビリテーション病院
広報委員会
〒997-0346
山形県鶴岡市上山添字神明前38
TEL 0235-78-7511　FAX 0235-78-7515
http://www.turuoka-kyoritu-hp.or.jp
E-mail:smcrh_ga@yamaikyo.or.jp

高齢者の４つの巨人と２つの課題への挑戦 ④

院長　茂　木　紹　良

不安定

骨折は、脳卒中に次ぐ寝たきりの原因です。今回は、その原因となる転倒についてお話します。転倒は骨折ばかりでなく、その恐怖により生活範囲の狭小化を招きます。そして閉じこもりや新たな歩行障害を引き起こします。さらに生活全般が不活発となり廃用症候群（生活不活発病）となります。さて、入院中の人は、経験のない新たな障害を有するため地域生活者より圧倒的に転倒を起こします。当院では、入院中に年間400件弱の転倒が起こります。その対策のため入院時のベッド周囲の環境整備や各種センサーにより先回り対応に努めています。センサーは、行動を抑制するために使用するのではなく、先回りを行い転倒しないように見守りすることを基本としています。ベッド上で起き上がる（離床センサー）、ベッド柵を外す（柵センサー）、立ち上がる（センサーマット）、設定の自由度の高い赤外線センサーを利用したもの、車椅子からの起立センサー等があります。ベッドには、柵を増やすためのリハビリバーやスーパーラクラク手すりを設置します。

センサーマット
リハビリバーの設置とセンサーマットが取り付けられています。

これでも転倒は日々起こるため、転倒しても骨折しない対応も必要になります。転落を予測した低床ベッド、衝撃吸収マット等も活用します。また、大腿骨頸部骨折を予防するためのヒッププロテクターを着用していただいています。当院では、常時、貸し出し用のプロテクターを用意しておき、その有用性を判断します。特に大腿骨頸部骨折の再骨折は、歩行能力の再獲得が難しいといわれるため装着をすすめています。実際、入院中の着用継続可能者は、対象者の７割で、家庭に戻ってから着用を継続するものはその４割程度でした。将来的には、床の衝撃吸収性の強化が課題のようです。

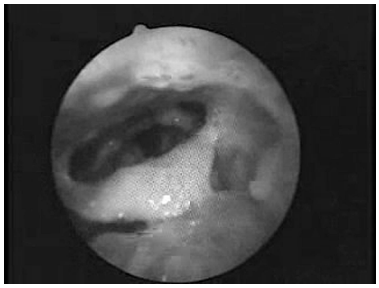
ヒッププロテクター
パンツタイプで、大腿骨頸部の箇所にパッドが入っており、転倒時の衝撃を吸収します。

最後に退院・退所してからの転倒予防ですが、地域生活者の転倒危険因子に脳卒中の既往、転倒の経験および１年以内の入院歴があります。つまり、当院を退院するほとんどの人が家庭での転倒の危険性があるということです。今、地域・家庭で如何に転倒を防ぐかが、ますます変わらず重要なテーマとなっています。

摂食嚥下障害に挑む

第4回 嚥下内視鏡

リハビリテーション科　福　村　直　毅


喉頭内視鏡の画像

嚥下障害を治療するとき、もっとも大切なのができるだけ早く障害の実態をつかむことです。そのために考案されている検査のひとつが嚥下内視鏡です。

食べることが難しくなる原因の６割程度がのど（咽頭）にあるといわれています。しかし、のどで何が起きているかを知ることは簡単ではありません。外から見えないところだからです。そこで、内視鏡を使って何が起きているか直接見ようというのが嚥下内視鏡検査です。

鼻から細いカメラを入れ、のどを上から覗きます。その状態で食べ物を食べてもらい、のどの通り方を確認します。体に負担が少ない検査ですし、嚥下内視鏡はコンパクトでどこにでも持ち歩けますから、病院はもちろん在宅、施設でも実施することができます。普段と同じ物を食べているところを検査でき、またいつもと同じ場所などあまり移動しないで実施できるので患者様の負担が少なくなり、疲労や緊張を最小限にできることから信頼度が高い検査です。

嚥下内視鏡も嚥下造影と同様に障害を持っていても安心してできるだけ豊かな食生活を送れることを目標としています。ですからまず安全に食べるための条件を確認して、さらに食べたいものをいかにして食べるかを診断することが重要になります。

当院では院内ではもちろんのこと、鶴岡協立病院、荘内病院、本間病院、大山診療所、在宅往診、施設往診を実施してきており、週平均 10 件以上の検査実績があります。今年度は県外からも嚥下内視鏡の見学に来る方が多数いらっしゃいました。将来的に嚥下障害診療の最大の武器になる検査と考えています。

トピックス　ボランティアさん大活躍

当院では多くのボランティアの方々にご活躍して頂いておりますが、日ごろの感謝を込めてご紹介したいと思います。あじさいの会や櫛引支部の方々を忘れることはできませんが、まず今回は、趣味を生かして楽しませて頂いている皆様をご紹介します。

そよ風の会（ハーモニカ）、コーラスドレミ、朝日、丸岡の踊りの会、なごみの会（カラオケ）等の会や、個人として今井茂様（手品）、鈴木茂様（三味線）、砂田英様（踊り）等多くの方々より特技を披露して頂いております。また、２年前に組合員さんよりピアノを寄贈して頂いたことから、プロの声楽家やピアニストによるミニコンサートを開催することができました。

そよ風の会によるデイケアでのハーモニカ演奏

多くのボランティアさんの活躍により、患者様や利用者様のすてきな笑顔を毎日みることができています。これからも宜しくお願い致します。